

平成27年度第1回 合同審議会議事録

日 時 平成27年5月14日(木) 13時30分～15時30分

場 所 田沢湖総合開発センター 1階 大集会室

出席委員 (田沢湖地域審議会委員)

高橋正男委員、田口知明委員、荒木田憲治委員、鬼川芳典委員、
中村正孝委員、中田晶子委員、千葉智永委員、浦山力委員、
堀川新平委員、三浦久委員、小松尚委員、柴田英孝委員 12名

(角館地域審議会委員)

草薨隆委員、能美忠堯委員、石橋正則委員、津嶋紀委員、柴田政幸委員、
吉田愼一委員、後藤瑞子委員、高橋栄委員、石川東平委員、小林郁男委員、
新山睦子委員 11名

(西木地域審議会委員)

佐藤正敏委員、佐藤一委員、沢山純一委員、武藤晟平委員、
齋藤瑠璃子委員、奥山孝子委員、武藤清茂委員、赤上マツ委員、
木元千恵子委員、野中秀人委員、長澤正士委員 11名

合計 34名

欠席委員 (田沢湖地域審議会委員)

藤川栄委員 1名

(角館地域審議会委員)

黒澤昇委員、藤原悟委員 2名

(西木地域審議会委員)

門脇健郎委員 1名

合計 4名

仙北市関係者

仙北市長 門脇光浩

副市長 倉橋典夫

角館地域センター所長 大澤龍太郎

西木地域センター所長 佐藤祥子

事務局

企画政策課長 平岡有介

企画政策課課長補佐 村瀬克広

定住対策推進室長 大山肇浩

定住対策推進室室長補佐 阿部聡

定住対策推進室主任 柏谷有紀

- 会議次第
1. 開会
 2. 委嘱状交付
 3. 市長あいさつ
 4. 会長及び副会長の選任について
 5. 案件
 - 1) 審議事項及びスケジュール等について
 6. その他
 7. 閉会

内 容

■市長あいさつ

委嘱状を交付させていただきましたが、皆様からお受けいただきまして本当にありがとうございます。どうかよろしく願い申し上げます。日中の会議ということで、さまざまご都合があったと思います。しかしながら、抱える案件が大変重要という認識があり、ここに出席していただいたとっております。まったくその認識のとおりであります。少し思い返してお話をさせていただきますが、平成 17 年 9 月 20 日に仙北市が誕生しています。あれから 10 年の時期になります。この 10 年間、皆様方の先輩、地域審議会の方々に合併特例法に基づいて大変重要な審議会ということで設置させていただきました。その時に新市建設計画や実施計画、総合計画の様々な計画に基づいて、新市を前進させていくという大きな思いからスタートした仙北市であります。しかしながら、一方では 10 年前に比べて人口は 4,200 人以上が減少しています。世帯数は核家族化ということもありますが、33 世帯が減少しています。この 10 年間に、様々な方々からお話があった中では、消滅都市や限界集落といったお話しがありました。そして地方はさらに疲弊感が高くなっている状況です。これまでリーダーをつとめた先輩方も、同じ思いで仙北市を発展させていこう、すばらしい郷土をつくっていこうという気持ちで行政に携わっていた方々です。しかし一方では、先ほど話したとおりの状況です。決して数だけではないと思いますが、その分豊かさを享受する市民が減ってきたということも事実です。なんとか改善していかなければならないという人口減少対策に大きな時間をさいて政策をねっているという状況です。そういったなかで 10 周年を迎えました。これから皆様方には次の 10 年間の設計図といわれている総合計画の策定にもご助言をいただきたいと思っております。過去を踏まえてのこの後の 10 年を一緒に議論し、審議をいただき、これまでなしえなかった、またはさらに伸ばしていこうという政策実現にむけてご尽力をいただきたいと思っております。

これまで審議会の皆様方からいただいた様々な提案については、実施計画や次の年の当初予算、または補正予算に形が変わる場合もありますが、反映させてきました。この後の時代の子供達のために、また世代のために、私たちがやらなければならない責任が大きいと思っております。この 10 年を境に私たちは次の 10 年に向けて力強く 1 歩を踏み出すという、地方創生元年にしたいという思いで取り組んでいるつもりであります。全国で 3 自治体といわれた地方創生特区の指定も着実となった状況です。その中でも提案

させていただいておりますが、何よりも大切なことは市民一人ひとりと一緒になって、市民協働によるまちづくりの実現と思っています。産業振興、福祉充実、教育の充実もそうですが、まずはその目標に向かって市民協働できるかが一番大切な根底だと思っています。そういう意味で審議会の皆様のパートナーとしての役割は、この10年の先輩方が踏んできた歴史をみても重要な年を迎えたとの思いであります。

この後、統合庁舎に関する議論が6月議会から活発化すると思っていますし、活発化しなければならないと思っています。今は素案の段階で市議会、市民の皆様には提示させていただいておりますが、この素案を成案とし議会と活発な意見交換を行いたいと思います。また市民の方々とも議論をしっかりと行っていきたいという気持ちであります。よろしくご協議、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

■会長及び副会長の選任について

田沢湖地域審議会 会長：中村正孝委員 副会長：三浦久委員
角館地域審議会 会長：小林郁男委員 副会長：後藤瑞子委員
西木地域審議会 会長：門脇健郎委員 副会長：赤上マツ委員

■案件

1) 審議事項及びスケジュール等について

資料1に基づき説明。

地域審議会の役割について

今年の審議内容

1. 新市建設計画の変更に関する事項
2. 新市の基本構想の作成及び変更に関する事項

審議内容

新市建設計画の期間延長 (配付資料「新市建設計画」P3)

庁舎建設事業の具体的方向性 (配付資料「新市建設計画」P57)

仙北市が将来目指す方向となる「基本構想」の審議 (配付資料「総合計画概要版」P1)

今後のスケジュールについて

事務局案としては7月、10月に各地域審議会を開催予定。

市議会からも審議をいただき、総合計画の策定は12月を目標としている。

あくまで事務局案のスケジュールのため、各地域審議会の会長がもっと審議したほうが良いという考えであれば、増やすことも可能。

質疑応答無し

■その他

門脇市長

その他ということでお時間をいただきました。人口減少対策に着目をして様々な作業を進めています。昨年度、角館地域審議会でも独自テ

マとして人口減少対策についてご議論いただいた経緯があります。その項目と現状についてお話させていただきますが、その話を参考にし、せっかく皆様からおいでいただきましたので、ご意見をいただきたいと思います。もうすでに人口減少に対するビジョンは策定を進めておりますが、さまざまアイデアをいただきたいと思います。その後に、仙北市が地方創生特区という指定をいただく流れとなっておりますが、それが何なのかというお話しをよくいただきます。その点についても事務局からお話しさせていただきたいと思います。

■角館地域審議会からの提言内容

- ・ 24 時間子供を預かっていただける施設を検討し、女性が働きやすい環境づくりを推進
- ・ 保育園や幼稚園の放課後児童クラブの連携を検討
- ・ 出会いの場の創出や結婚相手をうまく結びつける仲人制度の創設
- ・ 若年層を対象に結婚、出会い、希望職場等のアンケートを実施
- ・ 子育て世帯に関する助成制度の創出
- ・ 観光税の導入（課税免除となるためには地元雇用を必須とするなど。）
- ・ 企業誘致を強化し働く場を創出
- ・ 行政業務を民間にアウトソーシングする
- ・ 地元に戻ってきたい若者のために採用枠の拡大を図る
- ・ 自然景観という魅力をいかし、高齢者向け施設を整備し都会の方をお迎えする環境づくりを推進
- ・ 工業団地を造成
- ・ 宅地を整備し、移住しやすい環境づくりを推進

■市の現状

- ・ 保育園等の民営化（市の考え方を反映できる法人設立の方向）
- ・ 出会いの場創出については、企業と連携し首都圏在住者との交流の場を作るという企画を実施予定
- ・ 新婚世帯を対象とし、アパート等の家賃額の助成
- ・ 地元の企業が地元の方を採用する助成事業もスタート
- ・ 工業団地の整備については、次期総合計画で盛り込んでいく

これも踏まえて、皆様方からご意見をいただきたいと思います。

西木地域審議会
木元 委員

西木町の入口にあるガーデンカフェデリカテッセンというお店でお惣菜、お弁当を作っている木元です。人口減少対策についてですが、私は独身で働く女ですが、私のような人に出会いはどうなっているのか、彼氏は、結婚は、子どもはどうした、と言われるのは大変荷が重いです。そういったことを若い人に全て押しつけるというのは、どうなの

かなと思っています。子育て支援についても市で対策をねっていると思いますが、子育て以前の若い人が働きたいという場所がなければ、人口は絶対増えないと思っています。企業を誘致すればいいだけの話しではなくて、私達世代にどうすればこの場所にいたいのか、どうすれば楽しい場所になるのかを私達と一緒に考えてもらえればありがたいと思います。私で30代ですが、私で既に歳をとっている方だと思います。これからもっと若い人、特に高校生、中学生がこの場所に住みたい、この場所は誇れる場所と認識しなければ、戻ってこようと思わないし、外から誰かをつれてこようとも思わないはず。私達自身も、誇りであることを見つめ直すことからはじめなければならないと思います。それと地元企業の一員として、若い人と物事を進めていきたいと思っていますが、若い人の雇用が中々出来ないという現実があります。先ほど地元の人を雇用するための助成があると聞きましたが、それはもっと実施してもらいたいです。私達も出来れば地元の方を雇用したいです。地元のために地元の企業としてここで行っていききたいと思っていますので、市でも支援をお願いしたいです。後は先輩方の若い方への理解といいますか、若い人を育てるといふ思いでいろいろなことを教えていただきたいと思っています。これから人口減少、地域の雇用、活用を考えさせていただければと思います。

西木地域審議会
長澤委員

私はずっとサラリーマンをしてきましたので、人口が少ないという実感があまりありません。確かに私の家は小学校の近くですので、昔ほど小学生の声が聞こえないということはあります。今木元委員から発言があったように、地元の魅力がないと人がなかなか定着しないと思います。結局外から連れてこようとしても、向こうの方の人口が減ってしまいます。全体としては増えることにはならないと思います。やはり地元で長くいたいという政策を作っていく必要があると思います。

西木地域審議会
野中委員

3号委員ということで、地域運営体の関わりで声がかかったとおもいます。1つ運営体で行っていることですが、内陸線を利用した婚活列車を行っており、実績は2組です。なかなか難しいと思っています。それから特に最近は運営体に要望があるのは、身近なことです。生活上の身近なことが困っているということがありますので、人口対策とともに、現在住んでいる方の不便を解消したいと思っています。

西木地域審議会
赤上副会長

運営体の話がありましたが、上桧木内でお母さん達が何とか元気を出してここで暮らしたいという思いがあり、運営体の支援をいただきながら料理研究会を立ち上げました。講師を招き勉強しているところです。まず地元にいる方がここが好きで元気を出して暮らさないと、

	若い方に帰ってこいと言えないと思います。自分の子ども達も仕事場がないので親子が一緒にという環境が作れないでおりますが、せめて地元の方々に元気を出して頑張りたいと思っています。
西木地域審議会 武藤（清）委員	私は教員をしていました。いつも教え子達に、何人残っているかと聞きますが、数える程しか残っていません。仕事がないということもありますが、やはり住んでいる方々がここ良いよという発信をしていく必要があると思います。仙北市がすばらしいという発信をしながら対策を考えていきたいと思っています。
西木地域審議会 奥山委員	私は旧西木村職員で、早期退職しました。ここにはおりませんが、昔の仲間から、すごい倍率が高い審議会にあなたが選ばれていると、口車に乗せられてここに着席しました。引き受けたからには、先輩方から学び、がんばりたいと思います。
西木地域審議会 齋藤委員	西木で農業をやっております。私が人口減少で思うことですが、友人が子どもを産んで、働きたいということでアルバイトをしたいということでした。そこで時間保育を頼むと1時間500円必要となりますが、時給は680円～700円ということで、働いても時間保育のための経費に使うことになり、実際は1時間200円程度の給料になるということでした。子どもを育てるのは大変だと思いました。
西木地域審議会 武藤（晟）委員	内陸線の松葉駅ですが、中国・韓国人は多いですが、国内では岩手観光の方が駅を多く利用されています。何か良い宣伝方法がないか日ごろ考えています。よろしくお願いします。
西木地域審議会 沢山委員	私は運営体にも関わらせていただいておりますが、そば屋を営んでいます。西木の減反対策としてそばの生産も行っていて、50町歩ほどになっています。地方から都市に送ると、相手からの要望もきます。美味しかったよと言う声やここに来てみたいという声もあります。そういったことでどんどん交流を深めていけば、その地域が潤ってくるのではないかと思います。地域から何かを発信しなければいけないと思います。これからそういったことを形にしていくことが大事だと思います。得意分野を活かして拠点づくりをしていけば、ある程度のかたと交流できると思います。
西木地域審議会 佐藤一委員	西木町クリオンの側で暮らしております。西明寺は六本杉がメインストリートでした。今はクリオン、診療所、にしき園がメインになってきています。そこは世帯が増えている地域です。ただ、世帯の中に入る方々が高齢者が多く、若い方が入ればぱっと明るくなるのではない

かと思っていますが、近くに手間をとるような働く場所があれば、もう少し西明寺も変わるとと思っています。

西木地域審議会
佐藤委員

集約農業ということで、大規模農業を進めています。齋藤委員のように若くて頑張れる人は、なかなかいません。今後とも皆様から意見をきいて、農業に定着出来るようにしていきたいと思っています。力があるから田んぼを集めるだけでなく、野菜や花をやりたいといっても、やり方がわからない場合が多いです。ちゃんと教えられる良い指導者を置いてもらいたいと思っています。

角館地域審議会
新山委員

角館で写真館を営んでいます。身近で感じているのは、若い人がどうのこうのって言うてもしょうがないと思います。やはり今の小中学生又は高校生の教育をもっと充実してほしいし、彼らに頑張ってもらいたいので、影ながらいろんな面で応援していくことしか、自分にはできないと思っています。角館小学校では桜の案内人をやっています。そういったのは観光に良い影響を与えているし、子ども達の考え方や将来こういったことをやってみたいという気持ちにつながっていると思います。そういった活動を角館以外の方にも実施してもらいたいと思っています。今年は角館高校生が観光ボランティアで、観桜会や紅葉シーズンにも行っていましたが、もっともっと子どもたちにも参加してもらえれば良いと思っています。仙北市全体で子供達が積極的に参加できる事業に力を入れてもらいたいと思っています。

角館地域審議会
小林会長

角館の町中で電気屋を営んでいます。角館地域運営体は4年目になります。私達がやってきたことが本当に良かったのかを原点に戻ってみようと思い、2000程度のアンケートを実施しました。回収は約600枚です。今集計中ですが、意見をいただく欄ではさまざまな意見をいただいています。集約したら皆さんにお示ししたいと思っています。去年、審議会でも人口減少をテーマにしましたが、妙案はないと思います。いろいろな分野のことが全てうまく行って初めて成功すると思います。子育てする環境、企業、住宅といったことが全てうまくいかないと、少子高齢化に歯止めをかけられないと思います。

角館地域審議会
石川委員

花葉館に勤めております。首都圏からのお客さんが非常に多いですが、仙北市を見学した後に、ここは素晴らしい所だねと良く言われます。仙北市の良さを今後アピールしていかなければならないと思っています。とにかくお客さんの気持ちを大切に、快適にご利用していただき、感動してお帰りいただくことで、また来ていただければと思っています。リピーターを増やし、仙北市に住んでいただければと思っています。

角館地域審議会
高橋委員

白岩地域で農業を行っており、2人の子供がいます。まず現状ですが、はっきり言って農業を手伝っている若い人はいますが、手伝っているだけで、将来子どもを育てながら生活できるかとなれば、関東方面とは違い年間通して作物を生産できる環境が出来てないと思います。例えばハウスをたてるとなれば、除雪の問題や育てるうえでの灯油等の経費と考えるだけでマイナスになるので、少子高齢化と問題になっていますが、都会に出て行って現状を打開したいというのが若い人の考えだと思います。地元で農業でやっていくにあたって、先輩達から言われたことをしっかり守るのも1つあるし、逆に自分たちがこれからどういう風に農業をやっていきたいかを聞いていただける場面が重要視されてくると思っています。私は正直、これからは農業でしっかりと生活していきたいと思っております。どんどん良い話しや状況が変われば、もっと外から帰ってくる若者が増えると思います。今まで同級生や先輩等で東京にいて働いている人達が帰ってきて、もっともっと一次産業である農業を活性化すれば、良い市になると思っていますので、それに少しでも力を出せればと思います。

角館地域審議会
後藤副会長

料亭稲穂で女将をしております。初めて選ばれて、副会長にも選んでいただきました。人口減少については、1人跡継ぎが戻ってきたことは食い止めたこと、すごい誇れることかと思っておりました。その娘のことは小さい頃からみてきましたが、家にきて何が一番楽しいと聞けば、小さいころから知っている人がまわりにたくさんいると。外では名前で呼ばれていたが、ここに帰ってきたら名前と呼ばれる、そういった地域で育って良かったと思っているということでした。仙北市の現状を主人と話していますが、跡取りがきたらどこからか支援をもらえるかもしれないと思いましたが、そういった支援はありませんでした。この問題は何かして解消したら、お婿さんをもらう、相手はどこにいるのかという話題がでてくると思います。そういった後に子どもが産まれれば、子どもを誰がみるのかという問題も出てきます。そうなれば今選ばれて良かったと思っておりました。いろんな問題を抱えている人がたくさんいるだろうと思いき、人口減少に歯止めをかけるようなことを何か自分で考えることが出来ればいいかなと思っておりました。

角館地域審議会
吉田委員

私は仙北市の出身ではありません。出身は能代です。仕事の関係でこちらにきて、かれこれ40年ほどになります。仙北市に住んで、たくさんの方にお世話になりました。つくづく感じたのは、最初はよそ者だから相手にされないということです。そういったところから解消していかなければいけないと思います。まだほんのわずかですが、よそ者だとよせられる感覚がまだあるのかなと思っています。そういったのを解決するためにはどうすればいいのかと言うと、今すぐには思い

つきませんが、自分自身が溶け込んでいくことだとは思いますが。そういう意味で意識改革をすることが非常に大切ではないかと思えます。

角館地域審議会
柴田委員

私は武家屋敷通り、非常に嫌な言葉ですが、東勝楽丁に住んでいる柴田というものです。小学校のころから表を掃くのは男の仕事だと言われて、毎日行っていました。昔はなぜ掃かなければならないのかと思いましたが、最近のご先祖様のおかげで掃かせてもらっているという心境になりました。簡単に言うと、武家屋敷というところは普通の観光地のテーマパークではなく、人が誇りをもってそこに住んでいて、生活の匂いがするから人がくると思っています。家内は六郷から来ましたが、角館は女の人が住みずらい所です。うちのお袋が家内に家訓が2つあるといいました。1つは火事を起こしたらここを出なければならないと、火は女の仕事ですということでした。2つは氏神様を4月18日に掃除して、お祭りの中にお供えすることでした。このようなことが残っていたから角館の武家屋敷通りが残っていると思えます。そういった意味で観光客にへつらう、現状を壊すのではなく、もっと誇りのあるそういうものを持っていけたらいいなと思えます。そのためにはそこに住む人を、私みたいに65年関わらないと出来ないということです。そこらへんを考えた観光をしてほしいと思えます。

角館地域審議会
津嶋委員

農業について2点ばかり述べられましたが、先般、JAおぼこの集落営農組合長会議に出席することができました。その時に感じたことをお話します。30～40年前の農協青年部の活動をそのまま行っているような状況でした。農業の底辺作りは何となくしては大変だと思います。高橋栄委員の様な若い方が立派なことを話ししてくれました。60代が今の農業の中心です。底辺作りを真剣に考えていただきたいと思えます。

角館地域審議会
石橋委員

先ほど柴田委員がお話しましたが、私も武家屋敷に住んでいます。私は商売を行っていますが、厳しいです。毎朝掃除していますが、朝通りで何人か掃除していた方が今はほとんど見受けられなくなってきました。ここ10年でかなりの方が亡くなったり、病院等に入院ということで、高齢化が進み、空き家も増えてきています。小学生が案内人をしてくれたり、高校生が清掃活動をしてくれたり、色んなことで関わっていただければ大変嬉しく思います。これからもどんどん増えていき、住んでいる私達と地域をどう守っていくかということをお話あえたらと思っています。

角館地域審議会
能美委員

私の家にはまだ曲がり家を残していますので、維持費に非常に苦しんでいます。農家民宿も行っていますが、西木町の農家民宿の方々はア

アイデアを出して様々な活動を行っているようです。そういった仕掛けをして交流人口を増やすことが1つかと思います。それから市でも積極的に空き家、農地斡旋ができる体制をとれば良いと思います。それに関しては若い人がくるとは限りませんが、リタイヤした方がきて、農業をしながら住んでみたいなど。それから市の四季ははっきりわかれています。四季をもっとアピールしていき、交流人口をふやし、その中から定着する人がでてきたら良いと思います。保育の問題、高齢者の福祉の問題もケアしていかなければならないと思います。

角館地域審議会
草薨委員

農業をやるかたわら食に関する組織に身を置くものとして、さきほどお話されていますが、大変農業情勢は難しく、限界集落ができています。そんな中で仙北市は大変すばらしい食材がいっぱいあると思います。親戚も東京からきました、地域にふれて、空気を吸って、満足して帰りました。それらをどういった形で発信していくのか。それをうまく活用したら、限界集落の中でも、担い手不足とリンクしながら作る喜び、売る喜びを浸透させて行く必要があると思います。それから市長にお願いですが、挨拶の中で合併してから10年と、今後10年に向けての皆さんの意見をいただきたいということでした。物事には計画をたてて実行し反省し、次に活かすというのが重要だと思います。これまで計画したものを検証したものを、次の地域審議会に示していただければと思います。

田沢湖地域審議会
柴田委員

下高野の柴田です。たざわ湖スキー場のそばです。桜の木を植栽しています。財産区の方で手入れをして、今年は大変良く咲くのではないかと思っていました。角館も同じと思いますが、ばっと咲いて、ばっと散るというもので、せっかくお金をかけたのにもったいないという気持ちもあります。角館の桜が終わった一週間後くらいに咲きます。これを連絡をもっとよくして観光に結びつけてほしいと思います。地域運営体や町内会でも力を入れていますが、よろしく願います。人口減少対策ですが、どれをみても縮小傾向にあるということで、全体で考えていく必要があると思います。全体の中で検証するという作業も大切だと思います。東京一極集中というもので、地方で何億とかけて育てた人材が関東で就職される現象も含めて、国全体の人口対策、都市から地方に人口を動かし発展させるか。一市だけでは到底出来ることでないと思います。トータルで考えていただきたいと思います。

田沢湖地域審議会
小松委員

田沢湖観光協会です。仕事をさせていただいております。通常業務ではイベント等を行わせていただきますが、やはり昔より元気ないといった声はあるし、感じています。それを何とか変えていきたいと思っておりますが、人口を増やすというところでいくと内から増やすという

のはとても大事だと思います。制度、支援等を考えていただき、応援していただきたいと思います。それから戻ってくるというところですが、やはり職場を整備していただくというのは重要だと思います。戻ってきてもらうだけでは足りないというところもあると思いますので、外から来てくれた方が活躍する場だったり注目される支援が必要と感じています。1つ例を出すと、五城目町に教育関連の会社の社長が縁あっていらっしゃって、五城目の地元教育のために手弁当状態で行っています。そういったキーマンの方がいらしゃると、その方の近くでビジネスを始め、新たな企画を立ち上げたいという方が集まっています。いろんな若い方だったり、五城目に縁もゆかりもないけれども地域環境に惹かれて来る方もいるそうです。大きい会社がきて大きな経済効果とならないかもしれませんが、小さい効果がうまれていると思いますので、そういった方を誘致したり、その後を支えるようなキーマンを連れてくるということもあっていいと思います。実際、古民家の再生ということで、1千人の支援者から100万円を集めようという企画をしていました。その方は800人の支援者で500万の資金を集めました。そういった方がいると小さいことがうまれていくと思いますので、そういった方をひっぱってきてもらいたいと思います。ここは自然環境が良いところなのでスモールベンチャーの様な会社のサテライトオフィスをこちらに持ちませんかということからも何かうまれるかと思いました。

田沢湖地域審議会
三浦副会長

私は子どもと小学校までしか一緒に暮らしていませんでしたが、大学進学の際に、婿にあげるために育てた訳ではないと伝えました。2人いる子どものうち、1人はしっかり確保するという覚悟をもったというか、持たせるということで伝えました。幸いにして、仙北市に住んでいます。良く若者が働く場がほしいという意見を聞きますが、私もそう思います。私達の集落に東京から移住された方がいます。とても気さくにつき合っていただけます。その方が言うのは、職場をつくることは大事けれども作っただけでは、自分の思ったように子供達を教育する事は難しいと。秋田県は所得水準が低いほうですし、その中でも仙北市は高くありません。そういう中で教育するのもままならないという状況だと思います。市長は10%の所得向上を掲げられ、まだ道半ばかなと感じていますが、ただ工場を誘致するだけではなくて研究する機関も一緒にきてくれるような職場を確保していただければ、優秀な人材が集まってくると思います。秋田県は教育水準が高い地域ですので、せっかく教育にお金をかけても東京に出て行かれてしまっただけは残念だと思います。各種研究会社が集まれる仙北市にしていいただければ、黙っていても人が集まってくるようになるのではと思います。

田沢湖地域審議会
堀内委員

田沢湖高原ホテルの堀内です。人口減少については、私個人としては人口減少が悪いのかと言われると、悪いとは思いません。考え方として市税が減るといった部分もあると思います。都会の方のお客さんは地方は良いよねと言われる。何が良いかというところ開放的で隣り近所を気にしなくて良いとか、団地でなくて一軒家に住めるとか。プラス、マイナスの部分はかなりあると思いますが、マイナスをプラスに変換することと、逆にプラスをマイナスで最終的にプラスマイナス0に持っていけるような考え方はないのかなと思います。実際、私は観光のことしか良くわかりません。観光のことも全てわかっている訳ではありませんが、国内のお客さんが減ってきたので、インバウンドのお客さんを取り込んでプラスマイナス0にしようという考え方が、このままいってしまうと、人口減少がおきているので外から人を呼んでこようと。外から引っぱるとなればどこかが減ります。国内が減ってきたので海外から引っぱってこようという話しになれば、話しの根底が違うのではないかなと思います。仕事をしていて、インバウンドとしては海外のお客さんが増えてきています。仕事ではありがたい部分もありますが、根底の部分の国内のお客さんが来て頂けないということは、日本各地いろんなところでここより魅力的なところがたくさんあると思っています。田沢湖であれば田沢湖らしい売りを出すと。私は子どもが3人いますが、3人のうち1人くらいは残ってくれるだろうと思っています。時代が時代だと思います。景気が悪い、子どもを産んで育てるのはお金がかかると、そういうところまで若い人は考えています。お金の部分を援助すればいいのかなれば、それもどうかとは思いますが。時代が昔とは違うので、時代の流れの良い部分、悪い部分をうまく議論して、我々に何か返ってくるような話合いができればと思います。

田沢湖地域審議会
浦山委員

田沢出身です。仕事は湖畔で観光業を行っていますが、前回の会議でも仕事柄、観光と農業の融合とか、都市と農村の交流といったことで食べていくことは出来ないかという話しをしていました。人口減少を考えれば、この町は何を軸足にして食べていくのかというのがバラバラではまとまっていくのは難しいのかなと思います。確かに美味しいものがたくさんあって、来てくれた方に美味しいものをたべさせようと、山に来たら山のものをもとっています。ただ、それを頑張ったところで若者を増やして、養えるだけのパワーはないと思います。例えば思い切って、日本一人気の姥捨て山になるなど。あと1年2年しか生きない方でも仙北市に住所を移してもらい、その人をケアするということがたくさんうまれ、病院も流行る、という言い方は乱暴ですが。今特区のこともありますので、都会の方が田舎で余生をゆっくり過ごせると。老人ホームはこういったパターンが選べると。年寄

	りを仙北市に連れてきて人口を増やし、それに付帯した仕事が増えるという極端な提案はどうかなと思いました。
田沢湖地域審議会 千葉委員	農家で、冬はインストラクターをやっています。冬はお客さんも結構きますが、毎年減少しています。ここすごくいいねと言われます。でも人がいないから良いと思われるだけで、人がいればその分魅力は少なくなると思います。その魅力をどう発信するかとなれば、人づてが一番発信できると思います。大曲や横手でやっている街コンを仙北市でやってみれば、単純に人があつまって出会いの場ができるのではないかと思います。
田沢湖地域審議会 中田委員	神代の中田と申します。数年前に定年退職して地元の小さな土地改良区のパートで仕事をしています。人口減少には職場の提供、若い人の就労場所が必要と言われてはいますが、自分がいつまでも勤めているのはどうかなとは思っています。やはり就労場所を一番に感じているところです。若い人にとっての魅力は、多様化していると思いますので難しいこととは思っています。企業誘致にも取り組んでいるということでしたが、少しずつでも前に取り組んで行って、誘致したから良いということではなくて、これからずっと就労できるのか、もっとこの地域に住んでいただけるのかを考えていけたらと思います。
田沢湖地域審議会 中村会長	人口減という大変重いボールを投げられましたが、審議会として多様なボールを返球していかなければと思っています。課題や問題を解決していくそういう種類のボールを投げ返していきたいと思います。いろんな関連事項を市内の様々な資源と見比べながら考えていきたいと思っています。
田沢湖地域審議会 鬼川委員	地産地消についてですが、たくさん農家の方の取り組みをお聞きし、私は旅館を営んでいますが、皆さんが作られた産品がどなたに向けて作っているかというイメージはないかもしれません。市にお願いですが、マッチングの仲人をしていただきたいと非常に思います。自分もお客さんに地場のものを出したいという気持ちは強いです。山菜はもちろん大丈夫ですが、他の野菜等については地場産のものを活用できていません。仙北市産100%の旅館が頑張れば面白いのではないかと思います。
田沢湖地域審議会 荒木田委員	私は団塊の世代の最後の方ですが、私が子どものころはどこの家にも2人以上子どもがいました。今現在集落をみると、子どもは片手にもいません。子どもの頃は親から長男だから家に残りなさいという教育をうけてきました。たまたまここにいますが、自分の子どもを育てる

時はここに職場がないから自分で頑張って働きなさいということを出ていっています。家族は夫婦とおばあさんです。今子供達を親が教育していくときに、親が地元の良さを子どもに伝えるのが大事だと思います。子供達がここが良いというのを根っこから教えていくことが大切です。一番懸念されるのは、大工、工務店は大手の企業となり大工さんがいなくなってきました。大工がいなくなれば、修理するとなっても出来ない環境になってきていると思います。そういったことも考慮しながら、市長が私の子どもはここにおいて働かせたいと思うような環境を作ってください。

田沢湖地域審議会
田口委員

田沢湖駅の裏で材木屋をしております。皆さんのお話をきいて、話すことはもうないのですが、私は独身で、非常に耳の痛い話をずっときいていました。ここにこれからも住み続ける人間として、非常に危機感をもっております。私は会社の経営者ですので、会社の経営とリンクして考えるのですが、仙北市株式会社は門脇光浩という社長のもと、我々社員が一体となって取り組む必要があると思います。そのためには危機感を共有する必要があります。どこか人ごとのような、誰かがいつか何とかしてくれるだろうと、そういった声も聞こえてきます。先ほどいろんな方がおっしゃっていましたが、人口減少がどうなっていくのか、具体的にどういったサービスがなくなっていくのか、自分たちの生活はどう変わっていくのか、どれくらい不便になっていくのか、そういった事を一人ひとりイメージを持つと。それからどうするのかということがスタートだと思います。私は戦略的には医療だと思います。医療特区というのはこの地域を激変させるくらいの要素になると思います。もともと持っている温泉、農業の良さ、環境の良さ、自然の良さ、自然エネルギーの受給率の高さ、もてなしの心が連携できれば、世界中から人が押し寄せるのではないかという期待もっています。

田沢湖地域審議会
高橋委員

皆さんから色んな意見をお聞きして大変参考になりました。荒木田委員が根っこの部分の話がありましたが、大変感銘しました。人口減少問題をどうするかというのは決め手はないと思います。やはり1つは若い人達が住んで働ける場所、そして住んでいる方々が誇りをもって暮らしていける地域でなければならないと思っています。今お年寄りの方は、元気を出すために地域間交流などいろいろ行っていますが、若い人がいないので停滞している状況もあります。総合的な対策が必要だと思います。今お話の中で、高齢化して人口が減少した場合はどうなるのかということも検証して、対策する必要があると思ったところです。これから勉強していきたいと思っています。

平岡企画政策課長	第1回にふさわしく貴重なご意見をたくさんいただきました。市からは副市長から一言お願いします。
倉橋副市長	<p>本日は平日開催のところ、たくさんの方にご出席いただき大変ありがとうございました。今日は案件1点で終わるつもりでしたが、急きょ人口減少について皆さんからご意見を聞きたいとお願いしてしまいました。皆さんから毎日の暮らしに根ざした、今なされている仕事、地域をふまえた、具体的なご意見を聞かせていただきありがとうございました。柴田委員からは武家屋敷の話がありましたが、今日お集まりの皆さんは、上桧木内の赤上委員、仙北市と大仙の境にある花葉館に勤めている石川委員、田沢湖畔に暮らしている三浦副会長、あるいは田沢の一番奥の浦山委員、高原の一番奥にある蟹場温泉の鬼川委員と仙北市全体をぐるっとまわった代表が皆さんだと思っています。そして皆さんからいただいた意見を集約すると、仙北市の良さ、この地域の良さを如何に発揮して、発信していくかに尽きると思います。これから一年皆さんと意見交換をさせていただく機会を得ましたことを、大変嬉しく思っております。これからもよろしく願いいたします。</p>
平岡企画政策課長	<p>それでは最後に少しだけ時間をいただきまして、地方創生特区の概要について数分で説明させていただきます。説明は今年から新たに設置されました「定住対策推進室」の室長からさせていただきます。</p>
大山定住対策推進室長	<p>追加資料に基づき説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特区は特別区域内で規制を緩和する。緩和された規制を利用した事業を民間の方に行っていただき、地域を創生する制度。 ・本格的な政令指定は秋頃を想定。 ・こんな規制を緩和したら、こんな事業ができるのではないかという提案をどんどんしていただければ、産業も発展すると思われる。 ・これから広報でも周知していく。
平岡企画政策課長	<p>簡単に説明させていただきましたが、この後会議を重ねるなかでご意見等をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。非常に長時間にわたりご意見をいただき、大変ありがとうございました。次回開催につきましては、それぞれの審議会ごとに開催させていただきます。会長、副会長と相談しまして日程を調整したいと思います。本日は大変ありがとうございました。</p>